

科目名	日本文学入門			担当教員	黒田 翔大
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	① 日本文学について、大学における学習や研究に必要な視点を獲得する。 ② 文学の読解方法や理論を学び、それを踏まえて文学作品を読むことができるようになる。 ③ 文学における分析手法を、文学作品以外の対象にも援用できるようになる。				
授業の概要	本授業では主に日本の近現代文学作品に触れながら、日本文学の基礎と大学での研究の方法について学ぶ。作品の表現の正確な読み取りを重視する高校までと異なり、大学の授業においては、多様な読解の仕方を学びながら、作品のより深い理解を目指す。作品に対する様々なアプローチや具体的な作品分析を通して、大学における学びや研究の知見を得る。グループ・ディスカッションを行うなど、アクティブ・ラーニング的な活動も織り交ぜる。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	作家論
第3回	ニュークリティシズム
第4回	構造主義
第5回	イデオロギー批評①
第6回	イデオロギー批評②
第7回	読者論①
第8回	読者論②
第9回	メディア論①
第10回	メディア論②
第11回	夏目漱石『夢十夜』
第12回	森鷗外『高瀬舟』
第13回	芥川竜之介『南京の基督』
第14回	川端康成『伊豆の踊子』
第15回	授業の振り返り

事前学修		授業内容はゆるやかに繋がりががあるので、次の内容の理解を深めるためにも前回の内容を復習しておくこと。また、具体的な作品を扱う回は事前に読んでおくこと(テキストに関しては授業内で指示をする)。
事後学修		授業で扱った文学の理論や方法に関して、興味のあるものをさらに自分で調べる。そして普段読んでいる作品に援用して、作品の読解や分析を試みる。
フィードバックの方法	リアクションペーパーなどに対して、次回の授業内でフィードバックする。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない。
レポート	70%	授業内容を踏まえた作品分析をする(A4・2000字程度・書式自由)。
上記以外の試験・平常点評価	30%	リアクションペーパーや授業態度に基づく。

補足事項	<p>① レポート等でネット上の文章等を「コピー」やAIによる文章生成をしていたことが判明した場合には、失格とする。</p> <p>② 授業中の検索用端末等の利用は可とする。ただし、音楽を流す・撮影をする等周囲に迷惑がかかったり不快にさせたりするような行為は禁止。</p> <p>③ 平常点において、出席点(出席していること自体による加点)はない。ただし出席が不要ということではない。</p> <p>④ 学生の理解度の様子を見ながら、授業の進度や内容が変更する場合がある。</p>
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料を配布する。	---	---	---	---
参考資料	<p>ピーター・バリー『文学理論講義——新しいスタンダード』ミネルヴァ書房、2014年</p> <p>テリー・イーグルトン『文学とは何か——現代批評理論への招待』上下巻、岩波文庫、2014年</p> <p>大橋洋一『新文学入門——T・イーグルトン『文学とは何か』を読む』岩波書店、1995年</p> <p>石原千秋、木股知史ほか『読むための理論——文学・思想・批評』河出興産、1991年</p>			